



Title	加藤正治先生のご退職によせて
Author(s)	早瀬, 尚子
Citation	大阪大学英米研究. 2020, 44, p. 9-10
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/99441">https://hdl.handle.net/11094/99441</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 加藤正治先生のご退職によせて

早瀬 尚子

本学年度（令和元年度）をもって、加藤正治先生が大阪大学を定年退職なさいます。加藤先生の長年のご功績と本学へのご尽力、そして英語専攻へのご貢献に、深く感謝の意を表したいと思います。

加藤先生は、旧大阪外国語大学英语専攻のご出身です。1977年3月に英語学科を卒業の後、同年4月名古屋大学大学院文学研究科に進学され、大学院修士課程をおさめられました。その後、名古屋大学助手となられ、その後甲南女子大助手・講師を経て1983年4月に大阪外国語大学外国語学部講師として着任されました。以来ずっと私たちの先輩および同僚として、長年に渡り勤めてこられました。先生は2020年3月末日を以て定年退職されますが、以降は大阪学院大学にて引き続き教鞭をとられるご予定とうかがっています。

加藤先生のご専門は、名古屋大学の伝統を汲み、歴史的変遷を統語論的に分析されてきました。それに加えて英語の文法的な正誤パターンについてもたいそう詳しく、デイリーコンサイス和英辞典（第4版）や現代英語正誤辞典、ワードパル和英辞典などの辞書執筆にも携わっておられました。加藤先生とは一緒に翻訳に関わったことがありますが、細かく丁寧なところにまで目配りをしてくださり、私どもの拙い訳を微に入り細に入り念入りにチェックしてくださいました。誤りが少しでも減らせたとしたら、それは加藤先生に負うところが大です。

個人的な話をさせていただくと、私がお阪外国語大学に着任が決まり、サバティカルで海外に行かれる加藤先生ご担当の授業の後期を引き継ぐことになった関係で、申し送りのお手紙を直々にいただいたことがありました。ク

ラスの学生やテキストの情報、授業の内容について、丁寧にお知らせくださり、まだお目にかかれていないにも関わらず、そのお心遣いにとてもありがたかったことを覚えています。

加藤先生と直々にお会いできたのは1年後に帰国されてからでしたが、生意気にも私が日本酒を好みますなどと申し上げたため、今は亡き内田先生と3人で夜遅くまで研究室で飲んだり、神戸の美術館までターナー展を観に行く折にこれまた3人でアイリッシュパブ（Pig and Whistle）で一杯楽しんだり、愛媛の学会では私が行こうと思っていた「四六十（しろと）」という飲み屋におふたりで先に行って待っておられたりと、いろんな楽しいエピソードがあります。また仙台の学会の折には懐かしい「一心」というお店で英語学の面々で6時間近く飲み続けたり、謝恩会の前には畑田先生と3人で時間つぶしという名目でお茶をしたり、さまざまな局面でご一緒させていただきました。

大阪大学との統合に際し、加藤先生は文学研究科に移籍されることとなりました。総合大学において所属部局が変わってしまうということは、同じ系列とはいえ文化も制度も全く異なる別会社に属することと同じです。しかしながら、この大きな変革以降も加藤先生は、それまでと変わらない姿勢と態度で我々と接してくださり、旧大阪外国語大学改め新制外国語学部での授業のご担当ももちろんのこと、教授会にもほぼ欠かさず出席され、その責務を全うしてくださいました。あの統合の荒波の中にあって、文学研究科においても職務がおりである中、本当に他に類のない、特筆すべきご貢献だったと思っています。

加藤先生、長い間お疲れ様でした。共に働くことのできた時間はとても貴重で楽しく、ありがたいものでした。これからもどうぞよろしく願いいたします。

令和2年の元旦に

早瀬 尚子